

今を聴く
神尾真由子の神尾真由子(ヴァイオリン) &
ミロスラフ・クルティシエフ(ピアノ)
デュオ・リサイタル2019 11.17(日) 2:00pm
兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

少女時代から“神童”として注目を浴び、2007年にチャイコフスキー国際コンクールで優勝、一気に名声を得た神尾真由子。あれから12年。同コンクールのピアノ部門で入賞したロシアのピアニスト、ミロスラフ・クルティシエフとは音楽だけでなく私生活でもよきパートナーであり、11月、デュオで2回目の登場を果たします。コンサートを前にお話を聞きました。

自分の本当にやりたい表現、弾きたい弾き方が
年とともにできるようになってくるのだと感じます —— 神尾真由子

兵庫県立芸術文化センター(HPAC)にはリサイタルのほか、オーケストラとの共演、室内楽と何度かご出演いただいていますね。お客様の印象はいかがですか？

HPACのお客様はポジティブに好意的に、一方で、とても静かに聴いてくださいます。ノリのよい国だとなかなか静かに聴いてくれないのですが、HPACでは静かに、かつ日本の中でも特にあたたかく迎えてくださるというイメージがあります。

今回のプログラムの意図や聴きどころはどのようなところですか？

モーツァルトがとても好きで、私のキャリアはモーツァルトから始まった、といっても

過言ではないので、冒頭は“モーツァルト 回帰”。シューベルトの『幻想曲』はずっと以前から(クルティシエフさんと)二人でやってみたかった曲だったのですが、なかなかチャンスがなく、「この機会に」と選びました。難曲として有名で、技術的にヴァイオリンに対してもピアノに対しても要求するものが大きい、ベテラン向けの曲なので、とりあげられる機会も少ないのかもしれない。

そうして固まった前半に合う曲を考えたときに、シュトラウスのソナタが浮かびました。こちらはよく弾く曲。音量の幅が大きいことや、右手(弓を持つ方の手)のレガートが



現在は一児の母でもある神尾さん。「子育てはだんだん楽になってきました。子どもはまだあまり私がヴァイオリンを弾いている姿を見ていないので、お母さんがヴァイオリニストだと知らないかもしれません(笑)」

裏面に続く▶

重要な点でテクニク的に私の得意な面が活かれますし、まるでシンフォニーのように響き大きい、大ホール向けの曲です。

何度も弾いてきた曲でも、弾き方に変化が出るものなのでしょうか？

テクニクという意味では、ヴァイオリニストなら誰にでも何度か転換期があると思うのです。そこでまったく弾けなくなってしまう人もいますし、腰を据えて一からやり直してステップアップできる人もいます。私の場合は、転換期の度にできることが多くなりました。自分の本当にやりたい表現、弾きたい弾き方が年とともにできるようになってくるのだと感じます。

神尾さんの転換期のひとつは、2007年のチャイコフスキー・コンクール優勝だったのではないのでしょうか？それからの12年間で自身が感じる変化はありますか？

昔はどちらかといえば（左手の動きの方が得意で）音程を外さないね、指がよく回るね、と言われるタイプで、右手が苦手だったのですが、20代でそれを克服し、今は右手の方に自信があります。コンクール後、コンサートがたくさん続く時期と課題が大きい時期が重なったのは辛かったですが、諦めずに先生が注意してくださったおかげで克服できました。

ロシアを拠点とするクルティシェフさんをご結婚後、出産をされ、現在は日本とロシアを行き来する生活だそうですね。文化的な違いで特徴的なことはありますか？

日本にいたことが多くですが、夏と冬はロシアに滞在しています。

ロシア人はみんな自分の国が大好き。日本人は自分の国のネガティブな面を見て良くしようと考えることが多いですが、ロシアでは特にここ数年、愛国主義的な風潮が強くなっていると思います。

夫はロシアでは有名人なので、一緒にロシアで演奏をする機会もあります。

今回もクルティシェフさんとの演奏です。練習する際は二人で意見を出し合うのですか？

いいえ、意見するのはたいてい私です。彼は個性が強く、天才肌のタイプなので、あまり頭で考えて弾いていないようです。私はいつも頭で考えて言葉で説明できるようにしているので、タイプとしてはまったく違いますね。

これからどのように演奏活動を行っていきたいですか？

今はコンサートの回数をこなすよりもレパートリーを絞っていき



2016年のデュオ・リサイタルより

たいと思っています。

自分が演奏することにはこだわってはいないので、教えることも好きです。自分の演奏でなくても、自分の許せないような演奏が世に出ることが嫌なので、後進にも知識やコツを分け与えていきたいです。

最後に、お客様にメッセージをお願いします。

今回は、聞き慣れない曲名が多いかもしれませんが、とても美しい、聴き易い曲を並べています。気負わずに気楽に聴いていただければと思います。

ありがとうございました。



「強い、男性的な演奏と言われることが日本では多いです。自分でも、コンチェルトだとはやはり迫力は欲しいと思って弾いています。ただ、全部大きく弾いてしまうとイメージとしては力強くないので、ちゃんと盛り上がりを計算しています」と言う神尾さん。緻密でダイナミックな演奏をお楽しみに。

2019 11.17 (日) 2:00pm (1:15pm開場)

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

A 4,000円 B 3,000円 C 2,000円 D 1,000円 (全席指定/消費税込)

ヴァイオリン: 神尾真由子 ピアノ: ミロ斯拉フ・クルティシェフ

モーツァルト: アダージョ ホル長調 K.261、ロンド ハ長調 K.373

ヴァイオリン・ソナタ 第18番 ト長調 K.301

シューベルト: ヴァイオリンとピアノのための幻想曲

R.シュトラウス: ヴァイオリン・ソナタ

好評
発売中

ご予約・お問合せ 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255 [10:00am-5:00pm 月曜休み ※祝日の場合翌日] <http://www.gcenter-hyogo.jp>

主催: 兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

※未就学児童のご入場はご遠慮ください。 ※やむを得ない事情により、曲目等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。